

## TruPhase の導入(3) —デジタル再生における動作確認(1)—

### 1. はじめに

TruPhase のデジタル再生における動作確認を実施しました。

### 2. TruPhase のデジタル再生における動作確認方法

接続は P&G のフェーダーと TruPhase を入れ替え、入力は、Brooklyn DAC+からの RCA 入力で RCA1 の端子に入力し、出力は RCA 出力をアナログアキュライザー経由で Langevin 6V6pp アンプに入力することで再生を行いました。

すでに P&G のフェーダーで評価の固まっている、DMR-UBZ1 再生音源を使用し、Brooklyn DAC+の条件設定も既知の条件にしています。

音源としては下記を使用しました。

放送録画

#### 演奏会の再現(5)

NHK BS3 クラシック倶楽部 2020 年 7 月 21 日放送【収録：2019 年 1 月 23 日】

アンサンブル・ディアローギ

ハイドン：ピアノ 3 重奏曲

ベートーヴェン：ピアノと管楽器のための五重奏曲

#### 演奏会の再現(6)

NHK BS3 クラシック倶楽部 2020 年 7 月 31 日放送【収録：2019 年 9 月 27 日】

タカーチ弦楽四重奏団

ハイドン：弦楽四重奏曲第 32 番「鳥」

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第 9 番「ラズモフスキー第 3 番」

BPODCH

#### 放送ストリーミング No.199

アンドリス・ネルソンス指揮ベルリンフィル

マーラー：交響曲第 1 番

#### 放送ストリーミング No.202

ベルリンフィル団員

ベートーヴェン：中期弦楽四重奏曲

### 3. TruPhase のデジタル再生における動作確認の結果

前報(2)と同様、この場合も、位相反転のトグルスイッチを NORMAL の位置にする

と音が出ず、**REVERSE** で正常に再生できましたので、以下は **REVERSE** の位置で聴いていきました。

アンサンブル・ディアーロギとタカーチ弦楽四重奏団の演奏は、ともに生演奏を聴いていますが、その時の印象を忠実に再現できています。前者の演奏では、古楽器の質感、とりわけナチュラルホルンとフォルテピアノの音色が素晴らしく再現できています。後者の演奏では、ハンガリーの弦楽四重奏団らしい音色の豊かさと緊張感溢れる演奏が聴きどころです。

ベルリンフィルのマーラー1番の演奏は、静逸なピアノシモのディテールの表現から、フォルテシモの爆発までよく再現できています。特にベルリンフィル大ホルンの低音楽器の響きが魅力的です。

ベルリンフィルのベートーヴェンの中期弦楽四重奏曲の演奏は、ラズモフスキーシリーズなどを聴きましたが、急ごしらえの四重奏団とは言え、息のあった緊張感のある演奏が再現できています。

#### 4. まとめ

DMR-UBZ1における放送録画再生ならびに BPODCH のストリーミング音源を使用し、Brooklyn DAC+経由での TruPhase のデジタル音源再生の音質が確認できました。

以上

註：

上記の位相反転のトグルスイッチを **NORMAL** の位置にすると音が出ない問題は、その後、メーカーの協力を得て解決しましたので、別途報告いたします。